

会社を自ら創るということ

トレンダーズ株式会社 代表取締役社長 黒川涼子（1993年卒）
慶応義塾大学 文学部史学科 出身

■私の学生時代

立川高校では硬式テニス部に所属し、勉強よりは部活動に明け暮れていました。大学は正直なところ「偏差値の高い大学に入った方が将来得するかな」というくらいの軽い気持ちで選択し、慶応義塾大学の文学部に進学しました。

大学時代はテニスサークルに所属しましたが高校時代のように熱中することはなく、アルバイトやショッピングや飲み会などを楽しむ、至って普通の大学生活を送っていました。専攻は当時興味を持った東洋史を選び、イスラム教の神秘主義について研究していました。

私の学生時代を表現するなら、「特に何も考えていなかった」ということに尽きるかなと思います。特別何かに熱中した訳でもなく、何かを突き詰めた訳でもなく、何か目標を持っていた訳でもない。当時はインターネットも SNS もない時代、今から比べると圧倒的に情報量が少なかったこともあり、「将来について何も考えていないこと」を疑問に思ったり焦ったりすることはありませんでした。ただ一つだけ、「人と同じことはしなくない」という思いだけがぼんやりとありました。

■社会人になり、上場企業の社長になるまで

大学卒業後は、当時洋服が好きだったことからアパレルメーカーに就職し、営業職に従事しました。その後人材派遣会社、化粧品メーカーを経て32歳の時に、今のトレンダーズ株式会社に入社しました。当時のトレンダーズ株式会社は社員20名に満たない規模でしたが、そこから徐々に売上・社員数ともに拡大し、2012年には上場を果たし、2022年現在では売上約70億、従業員数は約200名の規模となりました。そして私は2020年の創立20周年のタイミングで代表取締役社長に就任しました。

トレンダーズは SNS マーケティングを手掛ける会社です。昔はブログ、最近では Instagram, Twitter, Tik Tok などの SNS を活用し、化粧品メーカーや食品メーカーのプロモーション支援を行っています。昨今の SNS ユーザーおよびその影響力の増加に伴い、企業のプロモーションが TVCM や雑誌広告といった従来型の手法から、SNS を活用する流れに急激に変化を遂げている中で、事業を拡大しています。

採用面接などのシーンで良く、「どうやって社長になれたんですか？」「社長になると何が違うんですか？」と聞かれます。ですが私は「社長」という役職に就くことを目標に掲げたことは一度もなく、誤解を恐れずに言えば「なりたい」と思ったこともありません。ただ社

長になるずっと前からトレンドーズを「誰かの会社」ではなく「自分の会社」と思い、会社を拡大させるために、より良い会社にするために自分が何をすべきかを必死に考えて実行してきました。そして現時点のトレンドーズにおいては、「社長」という役割は自分が担うのが最適だと判断したため、社長に就任することを決めました。だから私にとっては社長に就任したからといって何が変わった訳でもなく、ずっと同じ思いで同じことをしている感覚なのです。

■自分の会社で働くのか、他人の会社で働くのか

「会社は誰のものか」というのは良く行われる議論ですが、株主のもの、社長のもの、社員のもの・・・そこには様々な解釈があり明確な解はありません。それなのに働く人の大半は、「会社は自分以外の誰かのもの」だと思っています。そしてそれは仕事という人生の大半の時間を費やす場を、他者に委ねているということを意味し、私はとても勿体ないことだと思います。「会社は自分のもの」という主体的な思いを持って、自らの手でより良い会社を創ろうと努力すること。その主体性に社長も役員も平社員もありません。誰にでもそう思い行動する権利があるのです。

私が学生時代にそうだったように「特になりたいものがない」「夢や目標がない」そう悩む人はとても多いです。それでも私は「他人の人生ではなく、自分だけの人生を歩みたい」という思いだけはありました。そしてそれは多くの人にとって同じなのではないでしょうか。明確な夢や目標を掲げなくたって、「自分が主役だ」という思いさえあれば人生はいかようにでも切り拓けるものです。

立川高校は生徒の主体性を重んじる校風なので、学生時代は自由な環境で伸び伸びと楽しく過ごすことができました。学生の皆さんからすると、学校に比べて社会というものは、窮屈だったり辛いことが多かったりという印象を持つ方も多いでしょう。でもビジネスの世界は、学校以上に自由で平等な世界です。意識ひとつで誰もが主役になることができます。「会社を自分の手で創り上げる」そんな気概のビジネスパーソンが1人でも増えることが、この国の経済と未来を救うことにつながります。そして皆さんがその1人となることを、卒業生としてとても楽しみにしています。